

ニッポン ドクター和の 臨終図巻



実業家、エッセイストとして

多方面で活躍された浜田麻記子さんが5月29日に死去されました。享年80。死因は、急性心不全との発表です。夫で元衆院議員・弁護士の方田卓二郎さんは、5月16日に死去。享年80。こちらの死因は慢性心不全。夫の死から13日後の旅立ちでした。麻記子さんは、死の前日までイベントに出席されるなど活動的でした。5月22日のブログを、以下に引用しましょう(原文ママ)。

〈5月16日午後2時10分 卓二郎が永眠いたしました。〉(中略)

先月の終わりにも、心臓の働きが大変弱っているからいちど

258 実業家・エッセイスト 浜田麻記子

と私と一人でお父さんの顔を見ました。でも眠っていて起きない、そのうちそのまま息をしなくなっってしまったのです！その時、先生も到着。心不全、うらやましい限りです。痛くも痒くもない、眠ったまま。トイレもついにいつも自分で行きました。(中略) 紙おむつ断固拒否。満月の日に生まれて満月の時間になくなったのです。自宅での素晴らしい平穏死を、克明に綴る妻・麻記子さん。ブログには卓二郎氏の穏やかな死に顔のお写真まで載せています。しかし「良いことが悪いことか、この1週間で5キロ痩せてしまった」とも書いており、気丈に振る舞われていても、食べられないほどの喪失感に襲われていたことがわかります。

医学的な死因ではもちろんあり

伴侶を失った深い喪失感

検査入院してくださいと阿保先生におっしゃられた時も、入院だけは嫌ですと言って家に一緒に帰って参りました。(中略)

辛い素晴らしい(在宅の)先生が3日に一度は家を通して来て点滴をして下さったり、面倒をみて下さいました。(中略)

亡くなった16日も先生は点滴にいらして下さる予定でした。息子もどう？と来て、ちょっと起きて何か食べないと注射の針が差しにくいから

ませんが、愛する人を失ったことによる「喪失死」という言葉でしか言い表せない死を、僕も今まで何例か見てきました。

そういえば、先日米テキサス州の小学校で起きた銃乱射事件。犠牲になった教師の夫が、事件の2日後、追悼の場で花を捧げた後に急死したというニュースを目にしました…。

「喪失死」は、たいがい男性です。2018年に亡くなった津川雅彦さん(妻・朝丘雪路さんを看取って

から2カ月後の死)のことを思い出してしまいます。麻記子さんのような女性は、珍しいかも…。



お互い東大卒で、論客として名を馳せたご夫婦。ご多忙でいらしたお二人ですから、あの世でやっとゆっくり過ごせているのかもしれないね。

長尾和宏(ながお・かずひろ) 医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終図巻』として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。